【展示品一覧】

展示品名	編著者等	刊行年	備考	所蔵
考古学の窓	末永雅雄	1968	宮滝遺跡の研究史関 係の図書	個人蔵
末永雅雄が語る大和発掘ものがたり	末永雅雄	2004		個人蔵
増補 宮滝の遺跡	末永雅雄	1986		資料館蔵
丹生川上と鳥見霊畤・吉野離宮	森口奈良吉	1956		資料館蔵
大塔宮之吉野城	中岡清一	1937		資料館蔵
萬葉集論考	辰巳利文	1932		個人蔵
大日本地名辞書 上方	吉田東伍	1900		個人蔵
ふるさと吉野懐古写真集	吉野町文化協会	1986	吉野鉄道の写真など	資料館蔵
近畿日本鉄道 100 年のあゆみ	宮本又郎	2010		資料館蔵
岡山人じゃが 2019	岡山ペンクラブ	2019	美吉野運動場で練習を行った方々	個人蔵
世界の10人⑦ 人見絹枝	高木まさき	2015		個人蔵
暁の超特急 吉岡隆徳ものがたり	辺見じゅん	2001		個人蔵
南部忠平 南部忠平自伝	南部忠平	1999		個人蔵
山上 改第1冊	奈良山岳会	1935		個人蔵
山嶽 2	大和山岳会	1924		個人蔵
山嶽 3	大和山岳会	1925	吉野熊野国立公園関	個人蔵
大和アルプス 大台ヶ原	大和山岳会	1921		個人蔵
吉野熊野国立公園と其付近	林清三	1958		個人蔵
吉野群山及附近の山水探勝略地	吉野山岳会	1931		個人蔵
吉野神宮誌	吉野神宮奉賛会	1939	4 	個人蔵
紀元二千六百年 神社号ほか	紀元二千六百年奉祝会	1940		個人蔵
奈良市史 通史四	奈良市史編集審議会	1995	疎開の実態について	資料館蔵
学童疎開を語り継ぐ	国民学校と学童疎開を考える会	2019		個人蔵
若き日の旅	里見弴	1940	吉野ゆかりの文学	個人蔵
愛と憎しみの中で	植村諦	1947		個人蔵
日本未来派 第1~3号		1947		個人蔵
絵はがき		戦前	吉野の風景	個人蔵



吉野町への疎開状況(地図データはカシミール3Dより)



昭和3年頃の吉野鉄道路線 実線:実在路線 破線:延線予定(推測) (ピンク: 吉野鉄道路線、緑: 大阪鉄道路線、青: 大阪電気軌道路線) ①畝傍駅 ②橿原神宮前駅 ③吉野口駅 ④六田駅 ⑤吉野駅 ☆美吉野運動場



令和 3 年度 特別陳列 昭和初頭、激動の吉野 ~宮滝遺跡第1次調査の頃~

企画・展示 吉野歴史資料館 期間 令和3年3月1日~11月30日

(チームサカセンとの連携展示あり)



今日、飛鳥から奈良時代にかけて営まれた吉野宮跡は、吉野町宮滝の宮滝遺跡とされています。こうした見解が一般化す るまでには、江戸時代以来の長い研究の歴史、そして、昭和初期におこなわれた宮滝遺跡第1次調査が、大きな役割をはた しました。さて、この宮滝遺跡の発掘調査が行われた昭和初期の吉野では、ほかにも様々な出来事がおこっていました。本 展示では、宮滝遺跡第1次調査が行われていた昭和初頭をとりあげ、その頃吉野で何がおこっていたのかをご紹介します。

吉野鉄道と美吉野運動場

今の近鉄吉野線の前身にあたる吉野鉄道が全線開通した のが昭和3年のことでした。なかなか実現しなかった吉野 での鉄道敷設ですが、明治43年に吉野郡役所が鉄道設置 への協力を呼びかけ、明治44年に吉野軽便鉄道(のちに吉 野鉄道)が設立されます。大正元年、葛駅一吉野駅(今の吉 野口駅-六田駅)の路線が開通し、昭和3年になって今の近 鉄吉野線にあたる路線が全線開通したのです。

さて、この吉野鉄道は大正15/昭和元年、今の吉野町 上市に複合運動場・美吉野運動場を開設します。この運動 場では、日本女子オリンピック大会や日本女子東西対抗 陸上競技大会がひらかれたほか、日本初の女性メダリス ト・人見 絹枝、暁の超特急とよばれた吉岡 隆徳、走幅跳 の元世界記録保持者・南部 忠平らが練習などで訪れまし た。このとき彼らの指導をしたのが、運動場の管理人・谷 三三五。彼もパリ五輪の日本代表選手だった人物でした。

登山のはじまりと吉野熊野国立公園

日本では古くから信仰目的の登山が盛んでした。しかし、 スポーツやレジャー目的の登山が始まったは明治以降に なってからです。(明治以前にも、北海道の名付け親・松浦 武四 郎などが登山しています。)

明治38年に日本山岳会が設立されて以降、日本でもス ポーツやレジャー目的の登山が徐々に普及していきます。 こうした中で吉野では大台ヶ原をはじめとする吉野群山が 注目されるようになり、「大和アルプス」と呼ばれるよう になります。また、大和山岳会、吉野山岳会、奈良山岳会 が設立され、各機関誌で吉野群山が特集されました。

こうした中で吉野の山々が評価されるようになり、自然 保護の問題や林業家の反対活動、指定範囲の変更等、紆余 曲折がありましたが、昭和11年に吉野熊野国立公園が選 定されたのでした。

南朝の顕彰と戦争

明治~戦前の日本では、南朝が非常に注目されました。 南朝の舞台である吉野では、後醍醐天皇を祭神とする吉野 神宮本殿(明治22年創立)が昭和2年に竣工しました。また、 建武中興六百年の記念碑、後醍醐天皇を支えた宗信法印の 石碑、鎌倉幕府打倒に貢献した護良親王の仰徳碑などが建 てられました。そのほか、建武中興六百年祭や後醍醐天皇 六百年祭などの行事が行われるなどしました。

第二次世界大戦も終戦間近になると、今度は吉野が疎開 の場所として注目されるようになります。大阪市内の子供 たちや興福寺の阿修羅像などが吉野町へ疎開しました。

昭和初期の吉野の文学

吉野はふるくから、様々な文学作品の舞台となってきま した。『万葉集』や『古今和歌集』、『日本霊異記』、『今昔物語』、 『源平盛衰記』、『太平記』、『義経千本桜』などなど…。

昭和初期になっても吉野は多くの文人が吉野を訪れ、文 学作品を生み出しました。また、吉野町出身の池田 克己 や、吉野町で教鞭をふるった植村 諦、野長瀬 正夫らもまた、 詩人として活動していました。

終戦 川田順『吉野之落葉』発表。植村諦、帰国し作詩。 興福寺の阿修羅像など、吉野山舟知家に疎開する。 太宰治、井原西鶴の作品を再編し「吉野山」などを記す。

【昭和20年】

宮滝遺跡の第1次調査おわる

報告書『宮滝の遺跡』が

刊行される

吉野山や本善寺などに大阪の児童が疎開する。 野長瀬正夫、『大和吉野』を刊行。 【昭和19年】 竹内金太郎、 日本外史之碑を建立。

金峯山寺二王門、解体修理が開始される 前田夕暮『富士を歌ふ』を発表。

【昭和18年】

銅鳥居、 旧国宝に指定され

【昭和17年】

太平洋戦争開戦

昭和 13 年

昭和 19年

北原白秋、吉野町で歌を詠む。 【昭和16年】 高村光太郎、「さくら」作詩

第二次世界大戦開戦 折口信夫、吉野町来訪。里見弴『若き日の旅』 紀元二千 六百年祝典が吉野でも開催される 発表

【昭和15年】

日中戦争開戦 大塔宮仰徳碑、昭憲皇太后の歌碑が建立される 後醍醐天皇陵参拝道路の改良工事が行われる。 貯木場竣工にともない、美吉野運動場縮小。 竹内金太郎、吉野山に種桜記之碑を建立。

【昭和14年】

吉野山の桜を研究した三好学、『桜』を刊行。 柳田国男、吉野山で講演を行う。

【昭和13年】

中岡清一『大塔宮之吉野城』を刊行す 吉野山の桜に対 外科手術が行わ 1130

【昭和12年】

吉野の自然保護を訴えた白井光太郎

全日本女子東西対抗陸上競技大会、

吉野神宮奉賛会、『後醍醐天皇御事跡』を刊行。

万葉集研究家・佐々木信綱、

来訪。

美吉野運動場で開催。

(東京帝大)亡くなる。

【昭和7年】

美吉野運動場の大会に南部忠平、

織田幹雄ら出場。

【昭和8年】

建武中興大百年記念碑、建立される。

会津八一、

『南京餘唱』を刊行。

【昭和10年】

貯木場の設置が県に陳情される。

水原秋櫻子、吉野を訪れる。

吉野町出身の池田克巳ら、 宗信法印忠誠義烈の碑、 建立され 『豚』を刊行。 3.

吉野熊野国立公園が選定される。

五事件 【昭和11年】

佐々木信綱、

吉野町来訪。斎藤茂吉、西行庵などを訪れ歌を残す。

中村憲吉『軽雷集』を刊行。

【昭和6年】

谷崎潤一郎、吉野山で滞在。

『吉野葛』を執筆。

【昭和5年】

満州事変

吉野鉄道、大阪電気軌道に合併される。

古野山にロープウェイができる。

【昭和4年】

妹山樹叢、国指定文化財となる。

吉野鉄道、

大田 - 吉野間開通。

畝傍駅から古野駅の区間となる。 【昭和3年】

昭和5年 宮滝遺跡第1 宮滝遺跡の試掘調査はじまる

吉野宮所在地論争はじまる

昭和4年

美吉野運動場で日本女子オリ

ンピック大会開催。

以降昭和9年まで続く。

【昭和2年】

窪田空穂『鏡葉』発表。

谷三三五、

与謝野鉄幹、

晶子夫婦、吉野山を訪れ歌を残す。

オリンピックに向け人見絹江や吉岡隆徳を指導。

吉野神宮、竣工。

開設。谷三三五や人見絹江が出席。

奈良信託株式会社、

美吉野運動場、

【昭和元年】

昭和2年

設立される。

昭

和

初

吉野のできごと

宮滝遺跡の調査